

決算書アナリスト試験第4回出題の趣旨

第1問 選択問題である。ここでは、第2問以降で問えなかった事項を問い、総ての範囲から出題することを狙っている。各問のテキスト（第3版）の該当ページを示しておく。

1. → p. 28. 2. → p. 39-40. ; 14. 3. → p. 44-45. 4. → p. 56.
5. → p. 55. 6. → p. 61. 7. → p. 21. 8. → p. 65-66.
9. → p. 68. 10. → p. 42.

第2問 ROE 数値上昇戦略に関する問題であり、この中で、広く、企業の業績評価、収益性分析についても扱い、これらについての能力を見ている。具体的には、ROA の算定（テキスト、第3版、p. 38）から始め、営業利益を見る指標（p. 44-46.）を扱うと同時に、ROE の問題に誘導している。

営業利益の分析においては、この利益獲得に必要な要素（費用）について頭に入っていることが経営管理的センスを養うために必要である。問3がこれである（p. 14）。この中の選択肢カ. について、一言、付け加えておかねばならない。有休の土地を利用した駐車場の電気代について、この駐車場を利用するのが、誰かを考えた場合に、本社の従業員さらには、顧客であることも考えられる。そこで、これも正答にした。誤解のない表現は、有休の土地を利用し収益を上げている駐車場の電気代とすべきであった。ここでは、選択肢キ. と対比し、同じ電気代でも扱いが異なることを認識して欲しいというのが当初の意図であった。

最後に、本問の最終的な趣旨である ROE の上昇は、ROA 上昇つまり収益性の改善に留まらず、財務戦略によっても可能なことを学習して欲しい（p. 36.）。

第3問 株式投資の問題である。投資と言えば、利回り、株式の場合には、配当利回りが問題になる。そこで、当然の事として、配当利回りの計算を問うている（p. 73-74 ）。次に、会社の株主への対応、配当性向を見ることも必要であるので、これも併せて問うている（p. 42 ）。

株式投資においては、有価証券報告書の情報を見る必要がある。そこで、有価証券報告書の株式に係る情報を提示している。ところで、証券会社に行ったり、株式新聞を読むと、買い時という表現、さらに、これを根拠づける割安・割高という表現が出てくる。そこで、この判断の根拠となる指標、株価収益率（p. 73 ）、PER（p. 73 ）、割高・割安の判断の関係を問うている。

最後に、会社を見るときには、会計情報とともに、会社の戦略にも目を向ける必要

があることを示して、本問を終わっている。これも有価証券報告書に書かれている。

第4問 某社の実際の貸借対照表により、会社の安全性を分析する能力を問う問題である。安全性については、短期と構造的、一般に長期の視点から分析される（p. 52.）が、それぞれに係る代表的指標である、短期の流動比率（銀行家比率）（p. 53.）と当座比率（酸性試験比率）（p. 54.）、長期・構造的比率である総資産負債比率（p. 60.）、固定長期適合率（p. 62.）を計算させている。計算にあたって、これらの指標が短期のものか長期のものかについての判断がついていることは当然の前提となっている。

最後に、短期、長期の安全の判断を受けて、そのようになった経営者の企業経営の仕方を、貸借対照表項目を見て判断させている。企業経営の結果は、会計数値に現れるので、これを見る能力は必要であり、この能力を問うている。

ところで、答案の中に、上述比率の計算において、期首・期末の平均を取っている回答が少なからず見受けられた。これらの比率は、時点の判断のための比率である。これに関し、問1、問2の（2）の前期と当期を比較させている問題文においても平均を考える余地がないことを気付いて欲しかった。